

校訓:明るく・仲よく・たくましく 「あ・な・た」を大切にする心のふるさとパリ日 *depuis 1973*

# 日仏文化学院 パリ日本人学校



令和6年度学校だより 第8号 令和6年9月9日 発行 パリ日本人学校 校長 伊藤 博

## 9月(ながつき Septembre)スタート! ~パラリンピックが感動と共に閉幕~

9月がスタートし、一時帰国していた児童生徒も学校に戻り、多くの転入生も迎え、パリ日がいっそうにぎやかになりました。日増に秋が深まっていて、最低気温も下がっています。体調を崩さないように気を付けましょう。最長の2学期も、10日間が過ぎました。日本には「秋の日はつるべ落とし」という言葉があり、急に日暮れが早くなることを表していますが、パリでは、日に日に夜明けが遅くなっています。一日が短く感じられる、秋から冬へと季節が移り変わります。ぜひ、一日一日を大切に、充実の秋・冬を迎えましょう。



さて、9月8日(日)にパラリンピックが閉幕しました。本校では、フラワーレーンプロジェクトのアサガオを9月2日に全員で校地内に撒収しました。展示期間中、多くの関係者や来場者の方から、感謝やおほめの言葉をいただきました。種が採れるまで、あと少しお世話をお願いします。

## パラリンピック自転車競技観戦 ~杉浦選手 後日ロードレースで金メダル! ~

8月29日(木)、小学部3年生以上が、パラリンピック自転車競技を観戦しました。競技場に入った瞬間、各国の選手を応援する熱気がみ



なぎっていました。児童会・生徒会で作成した応援旗とパラサイクル協会からいただいた応援うちわを手に、日本代表の杉浦佳子選手(女子 3000m 個人パーシュート C1-3)、木村和平選手(男子 4000m 個人パーシュート B)に声援を送りました。残念ながらメダルには届きませんでした。迫力のある走りにパリ日が一つになって応援できました。なお、杉浦選手は7日に行われた女子個人ロードレースで**金メダルを獲得**しました。杉浦選手からはサイン入りのユニフォームをいただいています。オリンピックのブレイキン日本代表選手たちのサイン入りユニフォームと共に、事務室横に展示してありますので、ぜひご覧ください。

## 祝・車いすラグビー日本代表 金メダル獲得! ~パリ日の応援旗が選手を後押し!!~

パラリンピックの開会前に、児童会と生徒会で作った応援旗を、仏国三菱商事様から選手の皆さんに届けていただき、会場で応援旗に使っていただきました。また、試合後に金メダルをかけた選手との記念写真を送っていただきました。さらに、三菱商事本社総務部様から、日本代表の中心選手、池崎大輔選手のサイン入り自叙伝「新時代」を2冊寄贈していただき、図書室に配架しました。たいへん読みやすい本ですので、ぜひ手に取ってみてください。





## パラアスリート交流会 ～パラ陸上「やり投げ」6位入賞 高橋峻也選手来校～

9月6日(金)3・4校時、パリパラリンピック陸上「やり投げ」6位入賞の高橋峻也選手との交流会が開かれました。(パリ日本文化会館・トヨタ自動車株式会社共催)

高橋選手は3歳のとき、脊髄炎で利き手の右腕が不自由になりましたが、お父さんの勧めで野球を始め、「健常者の10倍努力しろ」という助言を受け練習に励みました。左手にグラブを持ち、投げる際には右手にグラブを持ち替え、左手で投げるという「グラブスイッチ」という方法で、鳥取県代表で甲子園にも出場しました。その後、大学時代にパラ陸上競技への誘いを受け、「やり投げ」の日本代表選手となり、現在、6メートル24センチの日本最高記録を樹立しています。

【小学部1年生～3年生】



講演の後、ジャベボールという羽のついたボールを投げ合う体験をしました。途中からは、片手をお腹に付けたまま投げる、高橋選手のように片手が不自由な状態で投げる体験もしました。最後に高橋選手にジャベボールを投げてくださいました。体育館の一番後ろの壁まで届き、パラアスリートの迫力を間近で感じることができました。質疑応答では、たくさんの質問が出され、スタッフの皆様も驚いていました。

【小学部4年生～中学部3年生】



講演の後、中学部2名、小学部2名の代表と、高橋選手とキャッチボールをしていただきました。その際に「グラブスイッチ」を実際に見せていただきました。迫力のあるキャッチボールが展開されました。その後の質疑応答では、やはりたくさんの質問が出され、一つ一つ丁寧に答えていただきました。

講演の中で「人との出会いを大切に」「目標を持った人生」という言葉が印象的でした。なお、終了後に一人一人が書いた感想を、後日、高橋選手に送ります。

最後に、高橋選手の所属するトヨタ自動車様から、全校児童生徒に記念のマルチペンと記念のシールをプレゼントしていただきました。短い時間での交流会でしたが、パラリンピック期間中に開催できたことがたいへん良かったと感じています。

